

P=ポイント

国 内		県 内	
10日	<b>2025年1月経常収支 2,576億円の赤字 2年ぶり</b> 2025年1月の国際収支統計(速報)によると、海外とのモノやサービスなどの取引状況を示す経常収支は2,576億円の赤字。赤字は23年1月以来、2年ぶりで、貿易収支の赤字幅拡大が要因。	1日	<b>新JAみやざき誕生 全国初の3連合会統合</b> JA宮崎中央会、JA宮崎経済連、JA宮崎信連の3連合会と、児湯、西諸県、東臼杵各地区の3畜連を統合した新たな「JAみやざき」が誕生。3連合会の統合は全国初。
10日	<b>備蓄米、41品種15万トン放出へ入札開始</b> 農林水産省は、政府備蓄米の放出に向けた入札を開始。対象は41品種で、まず15万トンを放出し、落札した集荷業者に引き渡す。3月下旬にも、スーパーなどの店頭に並ぶ見通し。	9日	<b>五ヶ瀬ハイランドスキー場 今季営業終了</b> 五ヶ瀬ハイランドスキー場(五ヶ瀬町鞍岡)が、今季の営業を終了。営業日数75日間の入場者数は約2万人で、休業前の2021~22年シーズン比2割減だった。
12日	<b>大手春闘賃上げ 満額回答相次ぐ</b> 2025年春闘は、最大のヤマ場である集中回答日を迎えた。電機や重工、鉄鋼大手では労働組合の賃上げ要求に満額回答が相次ぎ、自動車も高水準だった。	11日	<b>「元気印」企業 本県29社 宮交トップ</b> 東京商工リサーチ福岡支社は、2023年4月~24年3月期の決算で業績が好調だった九州・沖縄の「元気印」企業を発表。本県は前年度より9社少ない29社で、トップは宮崎交通だった。
14日	<b>賃上げ回答 平均5.46% 33年ぶりの高水準</b> 連合は、2025年春季労使交渉の第1回回答集計で、基本給を底上げするペースアップ(ペア)と定期昇給(定昇)を合わせた賃上げ率の平均は5.46%だったと公表。中小企業も5%超えて、33年ぶりの高水準。	12日	<b>本県景況感 4期ぶりプラス</b> 宮崎財務事務所が発表した2025年1~3月期の法人企業景気予測調査で、景況判断指数(BSI)がプラス3.7(前期2024年10~12月期はマイナス0.9)となり、4期ぶりに「上昇」が「下降」を上回った。
17日	<b>男女の賃金格差 最小に</b> 厚生労働省が発表した2024年の賃金構造基本統計調査によると、男女の賃金格差は過去最小。男性の賃金を100とした時の女性の指数は75.8と前年より1P上がり、過去最高。	15日	<b>県プール「パーソルアクアパーク宮崎」完成セレモニー開催</b> 2027年の「日本のひなた宮崎国スポ・障スポ」に向け、県が宮崎市錦本町に整備した「パーソルアクアパーク宮崎(県プール)」の完成式典が開催。競技の普及や地域活性化に期待。
19日	<b>訪日客、2月として過去最高の325万人</b> 日本政府観光局(JNTO)によると、2025年2月の訪日外国人数は325万8,100人と前年同月比16.9%増加し、2月としては過去最高を更新。春節(旧正月)に中国からの訪日客が増えたことなどが要因。	18日	<b>公示地価 県内商業地 34年ぶり上昇</b> 国土交通省が発表した公示地価(2025年1月1日時点)で、県内の平均変動率は商業地が前年比プラス0.2%で、34年ぶりに上昇に転じた。住宅地もプラス0.3%と2年連続で上昇。
25日	<b>2023年度の地方歳出、3年連続減少</b> 政府は、地方自治体の決算概要をまとめた「2025年版地方財政白書」を閣議決定。歳出は計112兆4,220億円と前年度比4.2%減り、3年連続の減少。新型コロナウイルス対策関連経費の減少等が要因。	23日	<b>「都城志布志道路」全線開通</b> 都城市と志布志港(鹿児島県志布志市)を結ぶ「都城志布志道路」が全線で開通し、開通式典が開催。今回の開通で、南九州の物流の活発化に期待される。
26日	<b>トランプ米大統領 25%の自動車関税著名</b> アメリカのトランプ大統領は、輸入自動車に25%の追加関税を課すと発表。日本からの輸入車も対象となり、アメリカに多くの車や部品を輸出する日本の自動車産業への打撃は必至。	25日	<b>2023年市町村別農業産出額 都城市5年連続日本一</b> 都城市は、2023年の市町村別農業産出額(推計)で、同市が過去最高の約981億円(前年比約70億円増)となり、5年連続日本一になったと発表。畜産部門が今年もけん引。